



元気いっぱい やる気いっぱい 笑顔いっぱい

せのうえ

瀬上小学校だより

令和5年12月12日(火)
第16号(地域回覧版)
文責:校長 高橋哲也

持久走記録会 がんばった子どもたちに拍手！

11月、各学級、各学年ごとに持久走記録会が行われました。

体育の授業、業間の休み時間に練習を重ねた子どもたちは、記録会でも立派ながんばりを見せました。

がんばった子どもたち全員に大きな拍手を送りたいと思います。

応援においでくださいました保護者の皆様、ご多用の中、ありがとうございました。

(6年生の記録会では、学校からの連絡内容に誤りがあり、大変なご迷惑をおかけいたしました。本当に申し訳ございませんでした。)



子どもたちのがんばりを見ていて、考えたことがあります。

瀬上小の持久走記録会では、同学年の全員が同じ距離を走ります。

走ることが得意な子にとっては、自分の力をめいっぱい発揮する最高の舞台になります。

一方、走ることがあまり得意ではない子、苦手な子にとっては、これは大変なことです。

苦しい思いに耐えて、最後まで走り切らなければならないのですから。

得意な子のがんばりはもちろん、苦手な子が最後まで走りぬくがんばりも、同じくらい尊いものだと思います。

その持久走ですが、実は、学校での教育活動のもとになっている学習指導要領では、距離の例示はありません。

例えば、5,6年生の持久走については、次のように例示されているのです。

無理のない速さで5～6分程度の持久走をすること

同じように、1,2年生では2～3分程度、3,4年生では3～4分程度の持久走と示されています。

走る時間を全員でそろえると、結果では一人ひとりの走った距離が変わってきます。

走ることが得意な子ほど、長い距離が走れるということになります。

苦手な子も自分のペースで無理なく走ることができます。

ただ、これまでの記録会のように1番,2番…といった順位が一見わかりにくいという難点もあります。

学習指導要領の例示は、あくまでも“例”ですので、必ずそのとおりにしなければならないものではありません。

ただ“持久力の向上”が課題でもある瀬上小で、子どもたちが自分の力に応じて持久力を高めるためには、併せて、運動が好きな子を育てるためには、距離をそろえた持久走、時間をそろえた持久走、どちらがより効果的なのでしょうか。

来年度に向けて、先生方と話し合っていきたいと思っています。

ようこそ！ 益田昌幸(ますだ まさゆき)先生



昨日、12月11日(月)から新しく勤務することになった職員を紹介します。

益田 昌幸(ますだ まさゆき)先生です。

1日につき3～4時間の勤務で、各学級の学習支援の他、6年図工、4年書写などを担当する予定です。

3月まで、よろしくお願いいたします。